

味わう秋

お弁当やおやつを片手に。
いつもの味が、ちょっと特別になる。

ピクニック

落ち葉や
どんぐり集め

探す秋

こどもも大人も楽しめる
秋ならではの自然遊び。

特集

みんなで育てる みんなの公園

自然を楽しむ、体を動かす、人とつながる。公園には、まだ知らない楽しみ方や可能性がたくさんあります。あなたのアイデア一つで、公園はもっと面白い場所になるかもしれません。あなたなら、どんな楽しみ方を描きますか。

問合先　公園緑地課☎072･620･1654



この秋、公園がもっと好きになる

いつもの公園も、過ごし方を少し変えるだけで、新しい発見に出会える場所になります。季節の移ろいに目を向ける、好きなことをしてゆっくり過ごす、体を動かしてみる。遠くへ出かけなくても、気分をリフレッシュできる時間が身近にあります。秋の心地よい風に誘われて、身近な公園へ出かけてみませんか。

みんなで育てる公園の新しい使い方

公園での過ごし方に、決まった形はありません。楽しみ方を自由に考えられるまちの身近な居場所であり、フィールドです。市内の公園では地域の皆さんが企画した花火大会や焼き芋大会、マルシェなど既存の公園の枠組みにとらわれないイベントが開かれています。

今、公園は「みんなで育てる場所」へ。地域のアイデアによって、その可能性はさらに広がり始めています。

アイデアをカタチに ～公園をもっと面白く～ 広がる公園の楽しみ方

市内にはおよそ520もの公園や緑地があります。これまでは、遊具や広場を整備し、安全に利用できるよう管理するなど、公園を「つくること」や「守ること」が重視されてきました。一方で、少子化やライフスタイルの変化により、公園に求められる役割も変わりつつあります。

今、公園は「市が管理する場所」から「みんなで育てる場所」へ。オープンスペースの良さを生かして遊ぶ、集う、くつろぐ、地域活動に活用するなど、使い方が自由に広がっています。

できない ではなく どうすればできる?

そのアイデア、公園でできるかもしれません



公園での やってみたい まずは相談から

公園は、誰もが気軽に過ごせるみんなの場所。地域での話し合いや市への相談、許可申請により、さまざまな活動が実現できる可能性がありますので、まずはご相談ください。

例えば、こんなことができます

- マルシェやキッチンカーの出店
- 音楽演奏会
- 映画上映会
- 地域での行事やイベント



昨年 11 月、西河原公園の芝生広場で開催された市民団体主催の「むすびっこマルシェ」。コーヒーや食べ物、ワークショップを通じて、多くの人の交流が生まれました。



今年 4 月、市民の「公園でやってみたい」を形にした「レクリエーションピクニック」が西河原公園で開催。音楽ステージや出店、大学生によるケイドロ（鬼ごっこ）など、多彩な催しが行われました。

Check 譲り合って楽しむ、みんなの公園

公園は自由利用が原則ですが、「自由に何をしてもよい」という場所ではありません。関係者だけで場所を独占したり、一般の利用者の立ち入りを制限したりする使い方は NG。他の利用者や地域住民に配慮し、お互いに譲り合って、気持ちよく利用しましょう。



竹橋公園



「まだ消えるな！」「がんばれ！」。こどもたちに大人気だった線香花火対決では、あちこちで歓声が。

自治会をもっと身近な存在に

楽しい!から始まる地域の輪

手持ち花火大会

竹橋町自治会・こども会

「自治会をもっと身近に感じてほしい」という思いと、「家でできない手持ち花火を楽しみたい」という地域の声から、こども会と連携した手持ち花火大会を企画。公園は原則火気厳禁ですが、「できない」を「できた！」に変えたことで、地域の一体感が生まれました。



01 市に相談し、安全に楽しむ方法を検討

まずは、安全対策や近隣への配慮について市に相談。水を入れたバケツの設置や地域住民への事前周知など、安心して楽しむための準備を整えました。

02 「また来年も！」地域の恒例イベントへ

昨夏始まった手持ち花火大会は、こどもからご年配の方までが笑顔で集うひとときに。軽食や花火を楽しみながら世代を超えた交流が広がり、「また来年も」の声に応え、今夏も開催しました。

03 花火から広がる地域の輪

手持ち花火大会をきっかけに地域の一体感が生まれ、その後は公園で餅つき大会を開催。機材やマニュアルを整え、他の自治会へ貸し出しやノウハウの共有も行っています。



続けることで育つ地域のつながり



竹橋町自治会 会長
楠さん

大切なのは、大勢を集めることではなく、人と人がつながるきっかけをつくり続けること。参加者が数人でも足を運んでくれれば成功。一度きりで終わらせず、無理なく続けていくことに意味があると思っています。小さな交流の積み重ねが、公園を誰もが自然と集える場所に変え、いざというときには防災や防犯を支える地域の力になります。これからも、人と人とのかけがえのないつながりが生まれていくことを期待しています。

これからもバスケを楽しむために

みんなで守るみんなのゴール

設置からわずか半年の間に、3度も破損してしまった中央公園下広場のバスケットゴール。「このままではバスケができなくなってしまう――」。利用者や団体が車座になり、これからの使い方を真剣に話し合う場が生まれました。

誰もが安心して使える場所にしようと、看板に記載するマナーや具体的な利用ルール、ゴールの運用方法について、みんなでアイデアを出し合いました。こうした取組に、B.LEAGUE所属のプロバスケットボールクラブ「大阪エヴェッサ」も賛同。今年6月、新たなゴールが寄贈されました。現在も利用者同士が定期的に意見を交わし、気持ちよく使える環境の検討を続けています。



多くの人たちの思いがつまった、地域の大切な宝物に。

世代間交流を活発にしたい

気軽に語り合う居場所に発展
焼き芋大会

山手台地区

「こどもの姿が減った公園に、もう一度にぎわいを」――住民が知恵を出し合ってたどり着いたのは、「焼き芋大会」というユニークなアイデアでした。公園の風景を変えた1日から、地域の新たな交流が広がっています。

01 こどもの姿が減った公園「にぎわいを取り戻したい」

高齢化が進む山手台地区では、公園でこどもの姿を見かける機会も減少。そこで地域住民が、地域の活性化を図るワークショップ「山手台公園ラボ」に参加し、公園をもっと身近で魅力ある場所にしようと、世代を超えてアイデアを出し合いました。







約100人が訪れ大にぎわい！





昨年12月の地域清掃の日に行われた焼き芋大会。約100人の地域住民でにぎわいました。

公園はみんなのものともに育てる「地域の庭」



公園緑地課
竹内

「公園は誰のものですか?」と問われたら、まだまだ行政が管理する場所というイメージが強いかもしれません。でも、本当はみんなのもの。市の役割は、市民の皆さんと同じ目線に立ち、「こんなことできるかな」という思いに伴走しながら、一緒に形にしていくことだと考えています。公園には、多世代が集い、交流し、暮らしを豊かにする〝地域の庭〟としての可能性があります。その可能性を地域と一緒に探っていくため、来年度から「みんなで育てる公園プロジェクト」が始まります。公園をもっと身近で魅力的な場所にするために、皆さんのアイデアやチャレンジをお待ちしています。









02 世代を超えて楽しめる焼き芋大会を企画

「こどもも大人も楽しめるイベントは何だろう?」。自由な発想で話し合いを重ねた結果、焼き芋大会を企画。チラシの配布から運営まで地域住民が協力し、市のサポートも受けながら準備を進めました。



こんなに**たくさんの人が集まった**公園を見るのは初めて！

歩いて行ける場所なので、**親子で楽しめました**

03 「公園に行けば誰かがいる」ワクワクが広がる居場所へ

焼き芋大会をきっかけに生まれた交流は、月1回のお茶会へと発展。特別な催しがなくても気軽に集い語らう場となっています。公園は人と人をつなぎ、新たなアイデアを育む居場所へ。次はどんなイベントが生まれるのか、ワクワクが広がります。





公園で芽生えた楽しさがまちをつなぐ大きな輪に



山手台地区
主任児童委員
門司さん

実現できるかはさておき、まずは自由な発想をぶつけ合う。焼き芋大会も、そんな語らいの中から生まれた企画でした。ゼロからの挑戦でしたが、みんなでとことん話し合い、知恵を絞る。同じ目的に向かって走るその時間の中で、確かな絆が育まれていきました。

焼き芋大会の後、「自分たちの身近な公園でもできるかな?」という声が、あちこちから聞こえてくるようになりました。一つの公園で芽生えた楽しさが、「うちの公園でも」という思いとなって広がり始めれば、その輪はやがてまち全体へと広がっていくはずです。

考えてみようワクワクすること
あなたのアイデアを聞かせてください

「公園でこんなイベントをしてみたい！」「こんなことができたら楽しそう！」そんなアイデアを募集します。皆さんの声を参考にしながら、これからの公園の使い方や魅力づくりを考えていきます。茨木市の公園がもっとワクワクする場所になるよう、ぜひアイデアをお寄せください。

▲こちらから

＼インスタグラムをチェック!／
公園の新しい魅力を発信中

公園緑地課のインスタグラムには、管理の裏側や地域の皆さんと一緒に考える公園づくりなど、ここでしか見られない動画を中心に、公園の見方が変わる情報が満載。あなたの「好き」がきっと見つかります。